

大阪市立港南中学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

平成 30 年度における全国学力・学習状況調査では、大阪市平均正答率より下回る。2 年生のチャレンジテストでは、大阪府を上回る教科が多かった。大阪市英語力調査 (英検 I B A) の 1, 2 年生は、大阪府を上回る数値を示した。全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点では、男子は全国の体力合計点を上回る。29 年度と比較し、大阪市、大阪府、全国の数値を超える調査が増えている。基本的生活習慣が安定し、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化が徐々に成果として表れてきている。また、学校生活の情報を日々「学校日記」により配信し、生徒と保護者の会話のツールとして有効に機能してきた。すべての根幹にある、教職員の日常のきめ細かな生徒対応と保護者との信頼関係が深まっていることが成果である。

しかし、学習に関しては、復習・予習を行う生徒の個人差が大きく、個別の課題提示やきめ細かな指導方法の工夫および習熟度別授業による支援が必要である。教員の授業では、学習の「めあて、ねらい」を明確にし、I C T・タブレット等による授業内容の工夫も必要である。また、道德教育では、人間としての生き方について自覚を深める道德授業づくりを進め、教員相互授業参観を活用し、更なる授業力の向上を図る。さらに、不登校生徒の減少及び いじめ・体罰ゼロを目指した取組を継続する。

教職員の働き方改革についても取組を行い、生徒・保護者・地域の信頼される学校づくりを行う。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現】**

- 全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を平成 29 年度から 4 年間で 90%にする。
- 全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を平成 29 年度から 4 年間で 80%にする。
- 平成 29 年度より 4 年間で、いじめ件数を毎年減少させ、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応を 100%にする。
- 不登校生に寄り添う姿勢で粘り強く取り組み年度末の調査において、不登校生を前年度より減少させる。
- 安全な学校環境づくりとして、老朽化した施設の数を減少させる。
- キャリア教育を充実させ、平成 32 年度末の進学・就職率を 100%にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 全国学力・学習状況調査において、一層基礎的・基本的な学力の定着と学習に対する興味・関心・意欲を高め、平成 29 年度から 4 年間で全国平均を目指す。
- 全国学力・学習状況調査における「家で学校の復習をしていますか」の項目について、「している (どちらかといえばしている)」と答える生徒の割合を、平成 29 年度から 4 年間で全国平均並みにする。
- 平成 32 年度末の生徒アンケートにおける「授業は楽しくわかりやすい」の項目について、「そう思う (まあまあそう思う)」と答える生徒の割合を 70%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査のすべての種目の平均の記録を平成 29 年度からの 4 年間で全国平均以上にする。
- 平成 32 年度の生徒アンケートにおける「運動することが好き」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を 80%以上にする。
- 平成 32 年度の生徒アンケートにおける「昼食 (給食) を残さず食べている」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば当てはまる)」と答える割合を 80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

○平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。

○平成31年度末の校内調査において、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。

○平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。

○平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

○全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を29年度からの4年間で90%以上にする。

○平成32年度末、学校で認知したいじめについて、解消に向けての対応を100%にする。

○不登校生徒の数を平成32年度末の校内調査において、各学年内で平成29年度より減少させる。

○平成32年度末には、老朽化した施設の数平成29年度より減少させる。

○全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を平成28年度より向上させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○平成31年度のチャレンジテストにおける標準化得点を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

○平成31年度のチャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。

○平成31年度のチャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。

○平成31年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

○平成31年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である項目（50m走・立ち幅跳び）の平均記録を、前年度より1ポイント向上させる。

学校園の年度目標

○平成32年度全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業を復習していますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を平成29年度より向上させる。

○平成32年度の生徒アンケートにおける「授業は楽しくわかりやすい」の項目について、「そう思う（まあまあそう思う）」と答える生徒の割合を平成29年度より向上させる。

○平成32年度全国学力・学習状況調査における正答率3割以下の生徒の割合を平成29年度より4年間で減少させる。

○平成32年度末の校内アンケートにおける「運動することが好き」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を平成29年度より向上させる。

○平成32年度末の校内アンケートにおける「昼食（給食）を残さず食べている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を平成29年度より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括